地理歴史科（歴史総合）学習指導案

日　時　令和〇年〇月〇日（〇）
第〇校時　〇:〇～〇:〇
学校名　都 立 〇 〇 高 等 学 校
対　象　第２学年〇組　〇〇名
会　場　〇　〇　教　室
授業者　教 諭　〇 〇　〇 〇

１　単元名　帝国主義の時代

（教科書：『歴史総合』実教出版、資料集：『明解歴史総合図説シンフォニア初訂版』帝国書院）

２　単元の目標

⑴　列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。

⑵　帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。

⑶　列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

３　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。	①　帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。	①　列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。

4　指導観

⑴　単元観

本単元は、高等学校学習指導要領（平成 30 年３月告示）地理歴史　歴史総合

２　内容

Ｂ　近代化と私たち

⑶　国民国家と明治維新

諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｲ) 列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解すること。

イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ｲ) 帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現すること。

３　内容の取扱い

⑵　内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。

ウ　内容のＢについては、次のとおり取り扱うものとすること。

⑶のアの（ｲ）については、アジア諸国では、近代化に向けた動向や民族意識の形成など、主体的な社会変革への動きがあったことにも気付くようにすること。また、日本の近代化や日露戦争の結果が、アジアの諸民族の独立や近代化の運動に与えた影響とともに、欧米諸国がアジア諸国へ勢力を拡張し、日本が朝鮮半島や中国東北地方へ勢力を拡張したことに触れ、各国の国内状況や国際関係の変化に気付くようにすること。

を受けて設定した。主に列強や日本の帝国主義政策とその影響を受けて変容したアジア諸国の動向を扱う。とくにアジア諸国の動向については、前々単元で学習したオスマン帝国のタンジマートや清の洋務運動について発問して復習させ、中国の辛亥革命などと比較させることで、上からの改革から民衆による革命に移行したことを理解させる。その際、既習事項と本単元の学習内容が関連していることを強調する。また、アジア・アフリカでの列強の帝国主義政策や日清戦争・日露戦争を扱う際には、歴史地図を活用し、第１学年で学習した地理総合の学習内容と関連付ける。

⑵　生徒観

本学級は、発問に積極的に答える生徒が若干名いるが、全体としては発言することに苦手意識をもっている。そこで、既習事項の確認のための発問をする際には、生徒を指名して答えさせるようにし、発言することへの苦手意識を払しょくできるよう指導している。また、授業中のワークシートの取組状況を見ると、あまり書けない生徒もいる。そのため、ワークシートの設問をスモールステップにして、生徒が意見を書きやすくしたり、個人作業の後にペアまたはグループで意見を交換する時間を作り、自分の意見を書けるような状況を整えたりするなどの工夫を行う。加えて生徒はそれぞれ自分の意見を持っているものの、それを適切に表現できないこともある。それゆえ、ワークシートを活用して意見を引き出す際には、きめ細かい指導が必要なので、机間指導を丁寧に行い、書けていない生徒に助言を行う。

⑶　教材観

授業ではワークシートの空欄に入る重要語句を板書して書き取らせているが、資料から情報を読み取ったり歴史的事象などを考察させたりする場合にはワークシート裏面に資料や問いを掲載している。本単元では、帝国主義が誕生した理由や日清戦争後の清と朝鮮を取り巻く国際関係、日露戦争が与えた影響について考察を行う際、ワークシート裏面に掲載した資料や問いを用いる。自分の意見をまとめて適切に表現する力に不安がある生徒が多いので、ワークシートは問いをいくつかの段階に分けて設定し、生徒が順序立てて考察できるようにする。ワークシートの冒頭にそのワークシートで学習する内容のテーマを示し、最後にテーマについてのまとめを記述する箇所を設け、学習の振り返りができるようにする。また、ワークシートの資料をＩＣＴ機器で提示することで、作業の指示を全体に伝わりやすくする。

５　年間指導計画における位置付け

単元名	時数
歴史の扉	２時間
近代化への扉	４時間
欧米の市民革命と「西洋の衝撃」	８時間
欧米諸国と日本の国民国家形成	４時間
帝国主義の時代（本単元）	８時間
第一次世界大戦と大衆社会	12 時間
経済危機と第二次世界大戦	12 時間
冷戦と脱植民地化	８時間
多極化する世界	６時間
グローバル化と現代世界	６時間

６　単元の指導計画と評価計画（全８時間）

時	目標	○　学習内容　・　学習活動	評価規準（評価方法）		
			ア	イ	ウ
単元を貫く問い 列強の帝国主義政策はアジア・アフリカにどのような影響を与えたのか。					
第１時	帝国主義が誕生した理由について多面的・多角的に考察し、表現する。	○　帝国主義が誕生した理由を列強側の要因とアジア・アフリカ側の要因から考察し、表現する。 ・　19 世紀後半のヨーロッパの不況・独占資本の形成・イギリスのエジプト支配の諸資料から読み取り、帝国主義が誕生した理由を考察し、ワークシートにまとめる。		①（ワークシート、定期考査）	

第２時	列強のアフリカ分割と太平洋分割について理解する。	○　アフリカにおけるイギリスの縦断政策とフランスの横断政策の対立とアメリカの太平洋進出について理解する。 ・　アフリカにおけるイギリスの縦断政策とフランスの横断政策の対立とアメリカの太平洋進出について、ワークシートに整理する。	①（ワークシート、定期考査）		
第３時	朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争について理解する。	○　日清戦争について、朝鮮をめぐる日清の対立だけでなくロシアの南下政策とそれを警戒するイギリスの対立関係から理解する。 ・　日清戦争について、朝鮮をめぐる日清の対立やロシアの南下政策とそれを警戒するイギリスの関係をワークシートに整理する。	①（ワークシート、定期考査）		
第４時	日清戦争後の清と朝鮮を取り巻く国際関係について多面的・多角的に考察し、表現する。	○　日清戦争後の清と朝鮮を取り巻く国際関係を列強の勢力圏と風刺画から考察し、表現する。 ・　19 世紀末の東アジアにおける列強の勢力圏を表す地図と風刺画を読み取り、清と朝鮮を取り巻く国際関係について考察し、ワークシートにまとめる。		①（ワークシート、定期考査）	
第５時（本時）	日露戦争が国際社会に与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現する。	○　日露戦争後の日露の接近が日本の大陸進出を進めたことと列強の国際関係を変化させたことを考察し、表現する。 ・　1904～16 年までの日本の外交年表・日露戦争前後の列強の国際関係図・20 世紀初頭の世界地図の諸資料を読み取り、日露戦争が与えた影響について考察し、ワークシートにまとめる。		①（ワークシート、定期考査）	
第６時	日本の産業革命が社会と経済に与えた影響について理解する。	○　産業革命と都市・農村の社会問題、社会運動について理解する。	①（ワークシート、定期考査）		

		・　産業革命と都市・農村の社会問題、社会運動について、ワークシートに整理する。			
第７時	産業革命がもたらしたものの光の部分と影の部分を比較し、主体的に追究する。	○　産業革命がもたらした経済発展と都市問題・労働問題について、よりよい社会の実現を視野に課題を追究する。 ・　産業革命期のイギリスや日本の都市と農村を比較して、ワークシートに課題をまとめる。			①（ワークシート）
第８時	日清戦争・日露戦争がもたらしたナショナリズムについて、主体的に追究する。	○　日清戦争・日露戦争前後で形成されたアジア諸国のナショナリズムについて、よりよい社会の実現を視野に課題を追究する。 ・　日清戦争・日露戦争の勝利が形成した日本のナショナリズムと日露戦争での日本の勝利によって高揚したアジア諸国のナショナリズムを比較して、ワークシートに課題をまとめる。			①（ワークシート）

７　指導に当たって

・　既習事項の確認については、積極的に発問を行い、生徒の理解度を確認するとともに知識の定着を促す。

・　ＩＣＴ機器を活用し、写真や図版などを示して生徒の興味・関心を高めたり、資料集やワークシートを用いた学習の指示を学級全体に伝えたりする。

・　複数の史資料（年表・地図・国際関係図）を一つずつ順番に読み取らせ、読み取ったことを整理させてから、その内容を活用して歴史的事象を考察させる。

８　本時（全８時間中の第５時）

⑴　本時の目標

日露戦争が国際社会に与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現する。

⑵　本時の展開

時間	○　学習内容　・　学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準（評価方法）
導入 ５分	・　前時の学習内容を復習する。	・　前時のテーマ「日清戦争後の東アジアでは、どのような国際関係が現れたか。」について説明し、その内容を確認させる。	

	○　本時の学習内容の見通しをもつ。 ・　本時のテーマ「日露戦争が国際社会にどのような影響を与えたか。」をワークシートで確認する。		
展開 40 分	○　義和団戦争後のロシアの動向と、それを警戒する日本とイギリスの接近および日露戦争の経過について理解する。 ・　ワークシートの空欄に重要語句を記入する。 ○　日露戦争後の日露の接近が日本の大陸進出を進めたことと列強の国際関係を変化させたことを考察し、表現する。 ・　1904～16 年までの日本の外交年表・日露戦争前後の列強の国際関係図・20 世紀初頭の世界地図の諸資料を読み取り、日露戦争が与えた影響について考察し、ワークシートにまとめる。 ○　日本の韓国併合の経過と中国の辛亥革命の経過について理解する。 ・　ワークシートの空欄に重要語句を記入する。	・　スクリーンに東アジアの列強の勢力圏を表した地図を投影し、地理関係を確認させる。 ・　スクリーンに「やまとひめとブリタニヤ」と日露戦争の風刺画を投影し、風刺画の人物がどの国を表しているか考察させる。 ・　日露戦争に日本が勝利したことが、中国の辛亥革命やオスマン帝国の青年トルコ革命などに影響を与えたことに触れる。 ・　一人で資料を読み取る時間と隣の席の生徒と意見を交換する時間を設けることを指示する。 ・　1904～16 年までの日本の外交年表に注目させ、日露の接近に気付かせる。 ・　20 世紀初頭の世界地図に注目させ、ロシアの進路変更に気付かせる。 ・　日露戦争前後の列強の国際関係図に注目させ、ロシアの進路変更が国際関係に与えた変化に気付かせる。 ・　２、３人の生徒に発表させて、学級で意見を共有させる。 ・　スクリーンに地図を投影し、登場する都市・地域の位置を確認させる。	

まとめ ５分	○　本時の学習内容を振り返る。 ・　本時のテーマについて、ワークシートにまとめる。		イ－①（ワークシート） 【Ｂ（おおむね満足できる）と判断する状況の例】 　日露が接近したことで日本の大陸進出が進んだこと、またはロシアがイギリスと提携し、オーストリア・ドイツと対立を深めたことのどちらかを記述できている。

⑶　板書計画

ワークシートの空欄の語句を黒板左上から順番に板書する

スクリーン
ワークシートの資料・地図を提示

⑷　授業観察の視点

・　複数の史資料を一つずつ読み取り、読み取った内容を整理してから、その内容を活用して歴史的事象を考察する学習活動は、本時の目標を達成するための学習活動になっていたか。

・　本時のワークシートの内容学習は、生徒の実態に合わせたものになっていたか。